

令和8年度（2026年度）第2期募集  
新潟大学大学院総合学術研究科 修士課程入学者選抜試験

# 問題冊子

試験科目	臨床心理学
------	-------

出題分野	MA05 臨床心理学分野	科目名	臨床心理学
選抜区分	一般選抜	解答用紙	枚数：合計 <u>4</u> 枚以内 ( <u>1</u> 問につき <u>1</u> 枚使用)

問1. 以下の設問1)～設問3)について答えなさい。解答は解答用紙に問番号・設問番号を明記してから記入しなさい。

設問1) ポール・エクマン (Ekman, P.) が提唱した, 文化を問わず共通して見られるとされる「基本感情」について, 説明しなさい。

設問2) 電話やビデオ会議システムなどをもちいた遠隔心理支援を実施する場合に, 通常の対面面接と比較して注意すべき点について, 治療関係, 倫理的配慮の観点から説明しなさい。

設問3) 以下の各文の空欄 ( 1～5 ) に当てはまる最も適切な語句を記入しなさい。

・ラザルス (Lazarus, R. S.) は, 刺激が自分にとって有害か否かを判断する ( 1 ) と, それに対して自分がどう対処できるかを評価する ( 2 ) という2段階の認知的評価モデルを提唱した。

・ロジャーズ (Rogers, C. R.) は, 人間には本来, 自らをより良い方向へ成長・発展させようとする ( 3 ) が備わっていると考えた。

・バンデューラ (Bandura, A.) が提唱した, ある課題を達成するために必要な行動をうまく遂行できるという自信や確信のことを ( 4 ) という。

・不安から自己を守るために, 無意識のうちに働く心理的なメカニズム (抑圧, 投影, 反動形成など) を総称して ( 5 ) と呼ぶ。

出題分野	MA05 臨床心理学分野	科目名	臨床心理学
選抜区分	一般選抜	解答用紙	枚数：合計 4 枚以内 ( 1 問につき 1 枚使用)

問2. 以下の設問1)～2)について答えなさい。解答は解答用紙に問番号・設問番号を明記してから記入しなさい。

設問1) 受検者の知能を評価するための個別式の包括的な臨床検査である WAIS-IVについて、WAIS-IIIからの変更点を2つ以上挙げなさい。

設問2) 認知症の周辺症状(BPSD)について、症状をいくつか挙げ、認知症患者本人および介護者への支援方法を具体的に述べよ。

出題分野	MA05 臨床心理学分野	科目名	臨床心理学
選抜区分	一般選抜	解答用紙	枚数：合計 <u>4</u> 枚以内 ( <u>1</u> 問につき <u>1</u> 枚使用)
<p>問3. 以下の設問1)～設問3)について答えなさい。解答は解答用紙に問番号・設問番号を明記してから記入しなさい。</p> <p>設問1)「恐怖」(fear)と「不安」(anxiety)の違いについて具体例を交えて説明しなさい。</p> <p>設問2)「合理的配慮」について、具体例を交えて説明しなさい。</p> <p>設問3)以下のそれぞれの番号の空欄に適切な語句を記入しなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・統計的仮説検定の文脈において、帰無仮説からの乖離の大きさ(帰無仮説が正しくない程度)を表す指標の総称を( 1 )とよぶ。</li><li>・物を盗みたいという衝動性や欲求を自分自身で抑えられず、常習的に窃盗行為を繰り返すことを主な症状とする精神疾患を( 2 )とよぶ。</li><li>・「今、この瞬間に、判断を加えずに、意図的に、注意を向けること」を( 3 )とよぶ。</li><li>・自ら筋肉を意図的に緊張させ、その後、緊張を解くリラクゼーション法を( 4 )とよぶ。</li><li>・自分の内的な感情への気づきと言語的表現が制限された状態を( 5 )とよぶ。</li></ul>			

出題分野	MA05 臨床心理学分野	科目名	臨床心理学
選抜区分	一般選抜	解答用紙	枚数：合計 4 枚以内 ( 1 問につき 1 枚使用)

問4. 以下の事例を読んで、設問1)～設問2)について答えなさい。解答は解答用紙に問番号・設問番号を明記してから記入しなさい。

【事例】

クライアント：Aさん(50代、女性)。主訴：3年前の交通事故による怪我をきっかけとした、持続的な腰から足にかけての痛み。経過：医学的な検査では、急性期の損傷はすでに治癒していると診断されている。しかし、Aさんは「動くが悪化するのではないか」という強い不安を抱いており、外出を控え、一日の大半を横になって過ごすようになった。最近では「この痛みがある限り、私の人生はもう終わりだ」と涙ぐむことが増え、抑うつ状態にある。

設問1) 以下の各文の空欄(1～5)に該当する最も適切な語句を記入しなさい。

・Aさんは、痛みという身体的刺激を、実際の損傷以上に「破滅的で取り返しのつかないもの」と捉えている。このような、痛みを過剰にネガティブに評価する認知の偏りを(1)という。

・「動く痛みが悪化し、身体がさらに傷つく」という恐怖から、身体活動を極端に避けるようになる悪循環のモデルを(2)モデルと呼ぶ。

・慢性疼痛の患者が、体調が良い時に過度に活動し、その反動で数日間寝込んでしまうような活動パターンのことを(3)サイクルと呼ぶ。

・治療においては、痛みがある中でも「家事をする」「近所を散歩する」といった、本人のQOLを高める目標を設定し、活動量を段階的に増やしていく(4)という技法が有効である。

・痛みは単なる生物学的な要因だけでなく、個人の性格や認知、周囲のサポート(社会的要因)などが複雑に絡み合って形成される。このような多角的な視点を(5)モデルという。

設問2) 慢性疼痛への心理的支援においてセラピストが避けるべき「望ましくない対応」について説明しなさい。